

第一部 【研究発表と懇談会】

1. 研究発表 題名： 「和田家文書」の出雲王朝 安彦 克己氏

(1) 説明趣旨：

「和田家文書」に登場する出雲に関わる事柄のうち、特に『古事記』最初の和歌とされる「八雲立つ・・・」に的を絞っての説明と解説でした。

(2) 発表項目：

①荒霸吐神と出雲の関係、②当該和歌、③荒神谷関連事項、④叡山山王のこと、⑤当該和歌と『楚辞』、等でした。

(3) 論点・質疑等：

①「和田家文書」での当該歌「出雲起出雲兮八重牆兮與妻棲兮八重牆兮造宮兮其八重牆兮」と『楚辞』との関連に皆さんの関心が集中しました。②特に、この和歌と『楚辞』との関係や、どこの誰がいつ作ったかを巡って、様々な意見が出されました。③なお、「兮(けい)」は“韻文の語句の中間または末尾に添え、一時語勢をとどめて更に発揚するとき用いる“助辞”とのこと(皇居での歌会始の独特の朗詠との関連もありそう)。(発表70分、質疑35分)

【懇談会】

①来月度の研究発表(「その二」としてフリートキングを予定)に向けて、“会報225号掲載の橋高修氏と226号掲載の村田智加子氏の「『魏志』倭人伝の行程に関する論稿」について、参加者は事前に読んでおいて欲しい”との呼びかけがありました。

又、②デスクッションの成果のまとめ方についても様々な考えが披露されました。(15分)

第二部 【勉強会と読書会】

1. 【勉強会】 「古田武彦『ここに古代王朝ありき』」 その4 新保 高之氏

(1) 説明対象：

第二部〔文字の考古学〕の第三章〔室見川の銘版〕と第三部〔説話の考古学〕の第一章〔大和の空白〕でした。

(2) 説明内容：

①〔室見川の銘板〕は1948年に発見され、1977年2月に先生が実見された時の印象や銘文の解釈などから、この銘板は「中国製でなく、“倭王宮殿の完成を記念”して作製された倭国製」であると論証されています。また、②〔大和の空白〕で先生は、〔弥生後期銅鐸の大和空白現象への仮説「大和先進統一権力発生論」を批判され、〔反銅鐸圏からの外部勢力が大和の中に侵入し、ここに居座っていた〕とされています。さらに関連して、神武東征の行路についても言及されています。③これらに関して、各章・節の主要点を抽出して説明と解説がありました。

(3) 質疑等：

特に神武東征と銅鐸国の滅亡に関して、古田説とは異なる様々な意見が多数提出され、予定時間を超える活発な意見交換になりました。(解説・質疑55分)

2. 【読書会】 『日本書紀』「雄略紀 新規その4」 新保 高之氏

(1) 対象：

十三年二月～二十年冬条でした。この間の主な出来事としては、①齒田根(はたね)命が采女を姦淫、②暴虐文石小麻呂(あやしのをまる)を天皇軍が征伐、③木工(こだくみ)・真根(まね)の失敗を甲斐の黒駒が救う④呉が技術職人を献上・呉人を檜隈野(ひのくまの)に置く、⑤根使主(ねのおみ)の悪行が発覚、⑥秦の民と漢部(あやべ)・土師(はじ)連の説話、⑦物部目連が朝日郎(あさけのいらつこ)を征伐、⑧穴穂部設置の詔、⑨高麗が百濟を滅ぼす等、歴史記事と説話的な記事が混載されていました。

(2) 履修内容

①この対象期間における年次毎に、原文の提示と付注の説明後に、現代語訳のを朗読があり、②最後に「トピック③」として、雄略紀の海外外交関連の記事12件を抽出しての簡単な解説がありました。

(3) 質疑・意見等

①海外関連の記事が倭王武の事績に類似するかどうか、二つの異なった意見が出されました。②「呉国」に関する意見もありました。(解説・質疑30分)

ご意見・ご質問はメールで【info@tokyo-furutakai.com】までお寄せ下さい。